

モデル事業名	地域住民、元住民、都市住民等の協働による「奥銀谷お宝マップ」づくりと活性化プログラムの作成
活動団体名	おくがなやちいきじちきょうぎかい 奥銀谷地域自治協議会
ホームページ	(現在作成中)
所属/担当者名	事務局/石井 二郎
連絡先	079-679-4131、okujitikyo@asago-net.jp
活動地域	兵庫県朝来市奥銀谷地域(ひょうごけん あさごし おくがなやちいき)

● 活動地域の概要

- ・集落数：8(奥銀谷、新町、小野、猪野々、白口、竹原野、緑ヶ丘、黒川。4集落が限界集落。)
- ・集落別人口/世帯数の推移、高齢化率の状況

	奥銀谷	新町	小野	扇山	猪野々	白口	竹原野	黒川	緑ヶ丘	上生野	合計
1961	376/94	637/161	352/89	553/147	1288/310	66/19	141/28	300/56	620/130	324/67	4657/1101
1970	297/74	436/161	301/82	342/96	339/92	49/13	131/27	227/46	313/85	307/67	2742/743
1980	251/72	561/200	230/75	—	140/55	28/11	120/29	176/43	154/47	—	1660/532
1990	193/64	536/184	185/64	—	140/69	21/7	121/31	124/40	252/82	—	1572/541
2000	163/59	445/177	156/63	—	62/47	10/8	161/85	94/38	236/85	—	1327/562
2005	136/49	443/176	135/63	—	55/41	7/6	149/90	87/36	213/84	—	1215/537
2008	131/50	366/155	128/55	—	51/39	5/4	141/86	83/34	194/82	—	1099/505
高齢化率	37%	33%	38%	—	51%	60%	64%	60%	32%	—	41%

※鉱山の閉山とともに人口が急減、扇山集落は消滅、新町と合併した。また上生野集落は、生野ダム建設により水没した。閉山から40年近く経つが、人口の減少傾向は続いている。

- ◆朝来市コミュニティバス(デマンドバス)/各集落間に、週2回、一日4~5本運行。
- ◆神姫グリーンバス/JR生野駅—奥銀谷、新町、小野、猪野々、竹原野、黒川間、休日は1日2本、平日は1時間おき(竹原野まで)に運行。
- ・産業：
 - ◆工業/当エリアには、昭和48年まで我が国有数の鉱山であった生野鉱山が操業していた。
 - ◆農林業/竹原野、黒川集落が中心。農家の規模は極めて小さい。高原の気候を利用した野菜、椎茸、リンゴ等の栽培が行われている。地域の9割以上を占める山林では植林が進められてきたが、従事者の高齢化、木材価格の低迷などで間伐等が適切に進められていない。
 - ◆観光交流/鉱山閉山後、坑道などを利用した観光交流施設「シルバー生野」が開業。入り込み数は現在は年間7.5万人(ピーク時：20万人超)。黒川集落では「黒川温泉」がある。1992年開業。入込客数3.2万人(ピーク時は5万人)。廃校の旧黒川小中学校を利用した特別天然記念物オウゴンウオの研究施設である「日本ハンザキ研究所」がH18に開設。新たな地域の魅力施設として地域住民も支援。



奥銀谷地域位置図。兵庫県のほぼ中央に位置し瀬戸内海に注ぐ市川の源流域である。



耕作面積が僅かな上に、人口の流出、高齢化等で耕作放棄地が目立つ。



急峻な中国山地の山々に囲まれた奥銀谷地域(黒川集落付近)。

- ・歴史：

黒川集落は平家の落人伝説があり、1367年に開基した古刹大名寺など長い歴史を持つ。竹原野集落には、内山に廃寺跡があり石仏が多数発見されつつある。一方、近年地域の伝統的な行事が人口減少・高齢化などで維持が困難な状況にあり、一部集落では消滅しているのも見られる。

● 活動地域の課題

- ・人口の急激な減少(1961年比で1/4以下に減少)、限界集落化が進んでおり(現在で8集落のうち4集落)、早急な対策が望まれている。
- ・今春、当地域唯一の小学校であった奥銀谷小学校が廃校となり、地域の活力低下が懸念される。
- ・このようななかで、地域の活性化組織である「奥銀谷地域自治協議会」が昨年結成された。この活動を順調に進めていくためにも地域が一体となる共感のある活性化への取り組みが求められている。

● 活動の内容

- ・平成21年度

活動①：「奥銀谷のお宝マップ」づくり

- ・地域固有の長い歴史・自然等の魅力を地域住民自らが動いて発掘・整理し、地域の共有財産として改めて再認識しながら、地域に対する誇りを醸成していく。
- ・ワークショップや高齢者への聞き取り、文献調査などを通じて、消えつつある事象を掘り起こしていく。
- ・地域探訪では、「奥銀谷のお宝探検隊」と称して、歴史探訪や自然散策を楽しむイベントとしても執り行う。

- ・また、都市住民や元住民がこの作業に加わることで、地域住民だけではなし得ない新たな視点を加えたマップとする。なお、この作業は引き続き交流事業やリピーターづくりの基礎ともなる。
- ・調査、探訪した結果を“奥銀谷のお宝マップ”としてまとめ、地域の財産とするとともに、対外的にPRするものとしてあらゆる場面において活用していく。

活動②：都市住民、元住民が主体的に参加する交流事業等の実施

- ・「奥銀谷のお宝マップ」づくりに参加した都市住民や元住民らが、奥銀谷地域等で行っているイベント（11/3「黒川秋の陣」、他）に単に客として参加するのではなく、お宝マップづくりに参加したことを中間的に発表するブースを設けたり工夫をしながら、奥銀谷地域をPRする。また、交流先の都市部のイベントで奥銀谷のPRを行う。
- ・この取り組みを通じて、都市住民や元住民らがより奥銀谷地域を“知る”ことになり、リピーターとして確実に“奥銀谷応援隊”の“隊員”として養成されることになる。
- ・また、昨年地域再生研究センターで行った空家宿泊体験を、これらの方々を対象に引き続き実施することで、二地域居住や定住の可能性を高めていく。

活動③：“奥銀谷応援隊”の組織づくりと活性化に向けたプログラムの作成

- ・地域の活性化を着実に進めていくために、活動①、②で参加した都市住民、元住民を対象として、“奥銀谷応援隊”の組織づくりをめざす。今年度は、来年度以降に本格的な組織を立ち上げるための、関係者の会合を行う。
- ・地域住民と外部の応援隊が協働して活性化、地域づくりを進める中長期的なプログラムを作成する。

● 活動の成果

● 平成21年度

- ◆「奥銀谷のお宝マップづくりワークショップ」第1回の実施
 - …7月26日（日）13:00～16:30、於：奥銀谷コミセン、内山に関するスライド上映、「奥銀谷のお宝マップ」作成にあたってのお宝カードの地図への貼り付けと評価、他を行った。都市住民、元住民（計8名）含み計30名参加。
- ◆「奥銀谷のお宝調査隊」の実施
 - …10月18日（日）10:00～16:00、於：奥銀谷コミセン・奥銀谷地域全域、4班（黒川班、竹原野・緑ヶ丘班、小野・奥銀谷班、新町・白口班）に分け、あらかじめ重要とされたお宝を中心に現地確認及びヒアリングを実施。計21名参加。（写真・左参照）
- ◆「奥銀谷のお宝マップづくりワークショップ」第2回の実施
 - …11月8日（日）13:30～16:30、於：奥銀谷コミセン、「お宝調査隊」の報告・整理、お宝マップのおおまかなたちの検討、他。計25名参加。（写真・中参照）
- ◆「奥銀谷のお宝マップ」の作成
 - …第2回ワークショップまでの取り組みを受け、自治協議会のメンバーで分担しながらお宝マップのたたき台を作成。
- ◆都市住民・元住民等との交流事業の実施
 - …11月3日（祝）の「黒川秋の陣」において、「お宝マップづくり」のとりくみについて大型パネルでPRするとともに、都市住民に参加してもらってお祭りを盛り上げてもらった。また12月13日（日）の「鶴甲もちつきバザー」（神戸市灘区）に奥銀谷地域から24名参加し、奥銀谷の物産を販売するとともに奥銀谷地域の紹介PRを実施。（写真・右参照）
- ◆会合の実施は、ワークショップや調査隊、交流事業を除き、これまで計10回実施。
- ◆ワークショップやお宝調査隊を通して一般住民の参加も生まれてきている。また奥銀谷地域と都市部との相互の交流事業で、奥銀谷地域への関心が高まりつつある。



「お宝調査隊」の様子。現地での調査、地域の住民へのヒアリングを実施。



第2回ワークショップの様子。奥銀谷地域内の福祉施設にボランティアできているドイツ人青年も参加。



都市住民との交流事業（「鶴甲もちつきバザー」）の様子。野菜販売、奥銀谷のPRパネルを展示。

● 今後の課題及び展望

- ・課題
 - ◆取り組みを通して、一般住民や新住民、元住民の参加はあるものの、当初予定していた今後の活性化につながるような参加数には達していない。1月30日（土）に行う全体会合には、格段に多くの参加を実現したい。
- ・展望
 - ◆2月末までに「奥銀谷のお宝マップ」を完成させる。
 - ◆元住民、都市住民との懇談会を行い、「奥銀谷応援隊」の組織づくりと活性化プログラムづくり（「奥銀谷お宝マップ」を生かしたとりくみの具体化など）に向けた取り組みを始動させる。
 - ◆これらの取り組みを弾みとして、奥銀谷地域自治協議会が、地域の活性化等に対しての「新たな公」を担うべき組織として体制の強化を図っていく。